



株式会社 SETOUCHI SEAWIND  
代表取締役

## 小西 智都子

1972年香川県高松市生まれ。2010年瀬戸内海専門の出版社「ROOTS BOOKS」を設立し、雑誌「せとうち暮らし」の初代編集長を務めた。これまでに瀬戸内の島々を紹介した雑誌やガイドブックを編集、出版。現在、株式会社SETOUCHI SEAWINDの代表取締役を務め、瀬戸内海の島旅専門トラベルサービスとして、チャーター船を使った島旅の提案や、インバウンド向けツアーの開発販売などを行っている。

行ったことがありませんでした。それが、香川県の移住定住促進の仕事をさせていただいたのがきっかけで、瀬戸内国際芸術祭（以下瀬戸芸）が始まる前の2007年から島に通い始めました。当時は団塊世代の退職時期で、地方移住というシニア世代が想定されていましたが、私は若い世代、例えばクリエーターな仕事に関わる人たちに来てもらいたいと考えていました。島は、新しいことを始めたい人たちにとって、とても魅力的な場所です。そこで、若い人たちの視点で島の暮らしを発信する情報誌があればと思ったのが「せとうち暮らし」を作るきっかけでした。

**知事** クリエーターな人や新しいことを始めた人々に、島の暮らしが向いていると感じたのは、どうしてでしょうか。  
**小西** 島では生活そのものがクリエーターです。例えば空き家のリフォームも、食料の調達も、

**知事** 香川県高松市のご出身である小西さんは、出版やツアーの仕事を通じ、島独特の風景や暮らしをはじめ、その魅力をあますことなく伝え続けておられます。小西さんならではの視点で見つけてこられた瀬戸内や島々の宝。本日は、その幾つかの輝きをお教えいただきたいと存じます。  
**小西** 家の前から女木島の灯台が見える環境で育ちましたが、社会人になるまで、ほとんど島に

### 知事対談 小西 智都子 × 池田 豊人

KONISHI CHIZUKO

IKEDA TOYOHIITO

# 世界に魅せたい瀬戸内の宝

に語ってくれました。建築の話にしても「これを作った時に石工職人のじいちゃんが、こんなことを言っていた」というような、バックヤードの語り部がたくさんおられる。そして、世界的なアーティストが来ても、全くお客さま扱いしない。その根っこにあるのは、郷土に対する誇りと愛着。そして、経済的に豊かでも心が豊かでないと、香川で言う「ふうが悪い（体裁が悪い）」、粹じやな

という考え方でですね。心を豊かにすること、目を喜ばせることを脈々と大切にしてきた層の厚さを感じます。瀬戸芸でも同じことで、島の長老たちは、作家がどれだけ汗をかいて一生懸命作ってきたかを知っている。作品そのものは「わからん」と言いながら、そこに込められたものを理解しているので、鑑賞のガイドをしてくれることもあります。アートの深遠な部分に触れるような話を、さらっと島の住人がしてくれるんです。そういう様子を外から来た人がご覧になると、それは感動しますよね。

そして、アートの交流が、例えば伝統工芸の世界に波及し、世界的に知られる産業まで生み出すような力にもなっている。「実」も兼ね合わせているのが讃岐の良さかもしれません。やっぱり、ここは瀬戸内海の商都ですから。瀬戸芸も大きな宝を生み出していただいて、これからはこれをどうやって「実」に変えていくかです。  
**知事** 庵治石しかり、最近注目の盆栽しかり、時代を超えて新しい展開の時を迎えているように思います。アートが香川県の企業と融合して、ブランド価値を高めるといふ展開も期待したい。アート県で働きたい、住みたいという、ステータスに育てたいですね。  
**小西** 2025年には大阪・関西万博が開催されます。万博に来られたお



## 瀬戸内海魅力発信の船頭さんをお願いします。

## アートから「実」への舵取りをお願いします。

都会のようにはいきませんから、とにかく自分から動かないと暮らしが成り立ちません。私が取材を始めた頃は、島移住はまだまだマイナー、移住者数もわずかででした。ところが瀬戸芸が始まり、島の印象は大きく変わりました。瀬戸芸のテーマは、海の復権。アートだけではなく、地域に根付いている文化や暮らしが見直され、島のブランドインゲができ、若い人が興味を持つ環境が整いました。現在は、船でアイランドツアーを行っています。この島々の個性もまた面白いのではないかと。この島々の個性もまた面白いのではないかと。この島々の個性もまた面白いのではないかと。

**知事** おっしゃる通りで、香川県には人々が暮らす島が24もあり、それぞれに個性的で固有の文化が伝えられています。そして、それぞれにアートがよく似合う。私が香川県に帰ってきて感じた一つは、瀬戸芸を育む豊かなアートの土壌ですね。香川県は、2012年に「アート県」を発表していますが、小西さんは、香川県がアート県に至るまでの軌跡を探る聞き取り調査もしてこられましたね。

**小西** 私が香川のアートに目覚めたのは、商店街の長老たちのおかげです。彼らは、よく故金子知事<sup>\*1</sup>やイサム・ノグチ<sup>\*2</sup>をはじめ、国内外からいろいろなアーティストが来たときの話を楽しそうに話してくれました。客さまを目の前に広がる瀬戸内海にご案内をしたいと、関西の人たちも思い始めています。せつかくの海ですから船で移動したいという要望もあります。これまで船は移動の手段でしたが、新たなお客さまにとって、船は遊びの道具です。移動の時間そのものを楽しみたい。そうすると、島でのコンテンツや遊び方、何より船自体が変わってきます。一方で、こうしたお客さま向けの大型プレジャーボートの停泊場所が少ないという課題もあります。

**知事** 先日高松市で開催されたG7都市大臣会合で、船で直島にご案内した際、甲板に出たときのゲストの歓喜は相当なものでした。瀬戸内海の船旅には、多くの方が感動します。小西さんには船頭になっていただき、瀬戸内海の魅力をますます開拓していただきたいと期待しています。これからの重要な役割を瀬戸内というエリアで果たしていただけますようお願いいたします。本日は貴重なお時間の中、ありがとうございました。

\*1 1950年〜1974年の24年間、香川県知事を務め、デザイン知事と呼ばれ、香川県内のアート志向に大きな影響を与えた。

\*2 20世紀を代表する彫刻家。庵治石の産地である香川県の牟礼町（現在の高松市牟礼町）に住居を兼ねたアトリエを構える。



香川県知事

## 池田 豊人

**小西** 2025年には大阪・関西万博が開催されます。万博に来られたお